令和4年度

徳島県立富岡東中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

中高一貫教育の特性を生かし，
生徒一人一人に「確かな学力」をつける教育内容の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
江川　由美子 （学力向上・1学年主任・英語主任）	長尾真紀（教頭），森岡宏文（教務・数学主任），江川由美子（1学年主任・英語主任）坪井芳史（3学年主任・技術主任），中田里江（2学年主任・体育主任・家庭主任），大和富美（国語主任），吉原美悠（社会主任），勝瀬伸弥（理科主任）

校長職務代理教頭

長尾　真紀

【小中連携または中高連携における共通の取組】

中高6年間の学習を通した知識・技能の習得・活用につながる，中高の連携を図った授業づくり

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

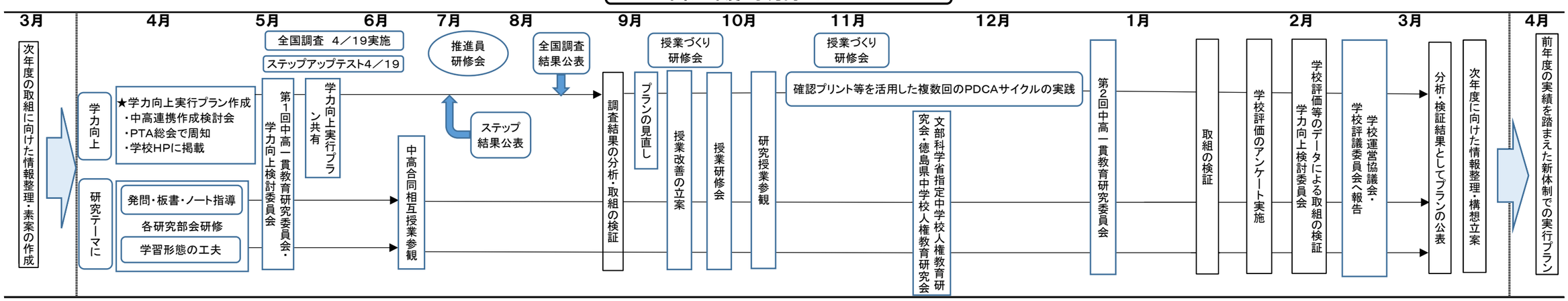
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり，与えられた課題にまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ● 発問にある解答の条件を的確に捉えて解答することに課題がある。知識・技能の習得・活用の一層の向上をめざす。	・学習を通して習得した知識が，既習の知識と関連付けられ，他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても，他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒が興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・中高の教員と連携した授業づくり，および相互授業参観を行う。 ・富東タイムやRRCを計画的に実施し，個に応じた指導を積極的に行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに，身に付けた知識等を用いて課題を解決する学習活動の場面を増やす。	・工夫した発問は多くの場面でできたが，その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・富東タイムやRRCを計画的に実施し，個別に指導することができた。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために，考えをまとめる「書く」活動や話すこと（発表）の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう，主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を促進する。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり，友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ●課題に関する必要な情報等を取り出したり，複数の考えをまとめて新しい考えを創造したり，表現したりすることに課題がある。思考力・判断力・表現力等の一層の向上をめざす。	・各授業の課題等に関する話し合い活動を行うことで，その解決のための方法を考えることができる。 ・習得，活用，探究の各場面において発表等の言語活動による表現ができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表等の言語活動を行わせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ，「なぜ」，「どうして」などの更なる発問を行い，生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。また，生徒のつぶやきを全体で共有し，課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会を適切に設定できた。 ・ICTや模造紙を使用した話し合い活動は多くできた。発表会等で，しっかりと発表し，また質問や感想を述べることができる生徒が多数いた。 ・深い学びにつながる発問については，題材により，難しい場面もあった。	ペア学習やグループ学習の方法は，学校や学年で統一できるところはするなど，より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め，生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○各授業に一生懸命取り組むことができる。また，家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●各教科のバランスを考えた学習計画を立てて取り組むことと，継続的に自学自習をすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り，自らの課題を解決できるよう計画を立て，実践することができる。	・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう，授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し，記述させたり発表させたりする。 ・定期的に生活実態調査を実施する。	生徒のつまずきに対して自ら問題解決の糸口に気づくような助言を与えたり，振り返りシートを活用したりすることで，改善を促す。	・授業のめあてをほぼ，提示できた。 ・振り返りをさせることができたが，記述については，不十分なときもあった。 ・定期的な生活実態調査により，生徒個々の実態を把握することができ，実態に応じた支援をすることができた。	各教科において目指す資質・能力の育成を図ることができるよう授業改善を進る。また，生徒の家庭学習，自学自習のやり方の改善を図る。

令和4年度　学力向上ロードマップ